

2 展開前段（とらえる）

1 導入(気づく)



◎授業前に、座席配置をコの字(Uの字)型に！
どの児童生徒も身近な距離で対話ができます。



補助発問
「何かに背中を押された」とあるけれど、自分の中のどんな思いに後押しされたのかな。

発問4（中心発問）
どうしてあやまれたのかな。「由美さん、ごめん。」と声をかけた時の拓也は、どんな気持ちでしょう。

発問3
「もやもやした気持ち」ってどんな気持ちですか。どんな気持ちでもやもやしているのかな。

発問2
ノートが自分の手に回ってきた時の拓也は、どんな気持ちでしょう。

発問1
ノートを拾いあげた翔太を見た時の拓也は、どんな気持ちでしょう。

4 終末（あたためる）

◎ゲストティーチャーに話していただく際は、ねらい・時間配分等、事前打ち合わせを十分に行うこと。



ゲストティーチャー（校長先生）の体験談

- ※道徳的価値に対する思いをあたため、今後につなげる。
- ⑧教師の説話・体験談・ことわざ・格言・作文・日記・『わたしたちの道徳』・手紙・映像・ゲストティーチャーの話
- ⑨学習を通して考えたことや新たにわかったことを確かめたり、さらに深く心に留めたりする。

3 展開後段（見つめる）



※児童生徒が自分の意見を発表するだけに終わるのではなく、登場人物の生き方や他の児童生徒の意見を手掛かりに、自分自身の考えを深めていく。

- ⑦資料から離れて、自分自身の問題として改めてとらえ直す。
「(自分自身の生活等を振り返り)〇〇について考えてみましょう。」
「～したことがある」「～されたことがある」「～を見たことがある」など、経験や体験をもとに、その時の気持ちを振り返らせ、今までの自分を見つめさせる。



※資料による話し合いを通して、ねらいとする道徳的価値の自覚を深める。

- ④発問1・2・3
- ⑤発問4（中心発問）
ねらいにかかわる話し合いになるようにする。
- ⑥補助発問
中心発問でたくさんの考えが出せるようにするための発問

※ねらい（主題）に対する興味や関心を深めて、学習への課題をもち、意欲を高める。

- ①導入
写真・映像・実物・新聞記事・日記・体験の想起・アンケート結果等を提示し、問題を投げかける。
- ②資料提示
あらかじめ、登場人物・場面状況等を確認し、範読の前に聞く視点を与える。
「主人公の気持ちは、どう変わっていったでしょう。」「主人公の気持ちになって聞きましょう。」
- ③範読
1回の範読で全員に資料の内容をつかませる読み方をする。
・キーワードの強調
・キーワードの部分での投げかけ

